

# 特定非営利活動法人 地球緑化センター

地球緑化センターの活動は内モンゴルの砂漠化防止から始まりました。

その活動は、現在では、「山と緑の協力隊」、「緑のふるさと協力隊」、「緑の親善大使」「緑の学校」などに発展し、森林整備活動の輪を拡げています。

過疎地域への支援としての取組が若者の就村を促すなど、

森林の整備だけではない成果も上がってきています。



中国の砂漠での植林活動の取組

## 拡がる活動の輪

地球緑化センターは、設立と同時に中国内モンゴルの砂漠緑化事業に取り組んできました。また、設立翌年からは、農山村に興味を持つ若者を、地域活性化を目指す地方自治体に一年間派遣するプログラム「緑のふるさと協力隊」を立ち上げました。地域に根付き、農林業だけでなくさまざまな分野で地域の人々と一体となって活動するふるさと協力隊は四季を通じて「地方の暮らし」を体験できることが大きな魅力となつて

います。都市から参加した若者の中には、地元の住民と意気投合して結婚に至るケースもあります。

平成二年度は三七市町村に隊員が派遣されており、これまでに全国三三都道府県の七六市町村に延べ四六五名の派遣実績となっています。

こうした中、同センターには、地球上から日本の国土面積の三分の一に相当する九四〇万鈔の森林が毎年消滅しているだけでなく、国内の森林も手入れ不足にある状況を捉え、「すべての生命を育む森林を守り、活性化させなければならない」との思

いがありました。こうした思いから、設立から三年目、森林ボランティア活動に参入することになりました。

最初の活動は、長野県木曾の赤沢国有林で、観光用のトロッコ軌道周辺で障害となる木を取り除いたり草刈りを行ったりする奉仕活動でした。地球緑化センターの活動の趣旨に賛同して順次活動に参加する人が増え、活動の場も、各地での民有林の間伐などへと、森林整備の輪が大きく広がりました。

一方、中国における取組も北京を砂嵐から守る緑化、長江上流や万里



作業前の打ち合わせ



整備現場に入っの打ち合わせ (写真上) と蔓などの除去作業 (写真中) と参加者一同 (写真下)

の長城の緑化活動などが加わり、「緑の親善大使」として活動展開しています。「緑の親善大使」は日中友好の掛け橋の役割も果たしつつあります。

### 過疎地域の人びとと交流

山村では過疎化と高齢化が進み、「限界集落」などがありがたくない言葉さえ使われています。そういう地域に自ら進んで出向き、農林業の作業を手伝うとともに、地元の人びとを元気づける活動が「山と緑の協力隊」の目的です。言わば、森林整備専門の短期間型「緑のふるさと協力隊」で、ボランティア活動として行っています。都市の若い人たちが過疎地域に出向き、北は岩手県、秋田県から南は山口県、四国の各県に及ん

でいます。地ごしらえから植林、人工林の間引き、枝落とし、草刈りなど森づくりに必要なあらゆる仕事をこなします。

「山と緑の協力隊」のプログラムは、土曜日の昼に作業を行う現地の最寄り駅に集合して、午後に森林で作業を行い、夜は森林教室と懇親会、日曜日の午前中に山仕事を行って解散します。地元の人びとの好意で、ソバ打ち教室や特産品づくり教室が開かれることもあります。

現場の活動には、一〇代から七〇代まで男女を問わずに参加できます。森林作業班は経験豊富な人を班長に編成しており、安全第一に楽しみながらの仕事に徹しています。交通費と宿泊費は自己負担で、地元迷惑を

かけないのが大原則です。

### 湘南海岸林の整備にも

湘南地域の海岸林を守る活動も「山と緑の協力隊」の活動として平成二〇年にスタートしました。海岸からの飛砂を防ぐ森林を健全に保つため、下草刈、つる切、除伐等を行います。午前中に整備作業を行い、午後は浜辺で野外教室を開催したり、どんぐり拾いというスケジュールで、このどんぐりを苗木に育て将来、湘南海岸に植樹する計画です。

当初、大学生中心の活動でしたが、最近では一〇代から六〇代まで幅広く参加するようになり、大きく活動の輪が広がっています。

### 森と町を結ぶおかしの森

森林をよみがえらせ、山村を元気にするには都市の住民の協力は大きな力になります。平成二一年七月に長野県小海町に「おかしの森」をオープンさせ、森と町を結ぶ太いパイプをつくりました。木の実を食材にした「創作菓子コンテスト」をはじめ、森林教室や森づくり活動、木や木の実を活用する創作活動などです。

創作菓子コンテストには、三〇〇

点以上の応募があり、センターは「おかしの森」を各地に作って、森林再生活動の大事な柱にして活用したいと努力しています。

### CO<sub>2</sub>マイレージを導入

山と緑の協力隊は、平成二〇年から「CO<sub>2</sub>マイレージ」を導入しています。森林の二酸化炭素吸収源としての機能を高めるために、森林の適切な管理をおこなっていますが、さらに一歩進めてグリーンアースマイレージ(GEM)の名称で進めています。これは、地球緑化センターの森林ボランティア活動に参加する人の活動を数値化し、計算して(CO<sub>2</sub>を貯金)そのCO<sub>2</sub>削減分の苗木を、中国豊寧県<sup>ホウネイ</sup>の荒れ地に植える仕組みです。

マイレージのカウントは、地球緑化センターの活動に参加した方々の活動を一時間当たり一〇kg / CO<sub>2</sub>とカウントし、一年間にスギが吸収する一四<sup>キログラム</sup> (森林総合研究所調べ)で割り返してスギの苗木の購入本数を算出、緑化活動に役立てるとい